

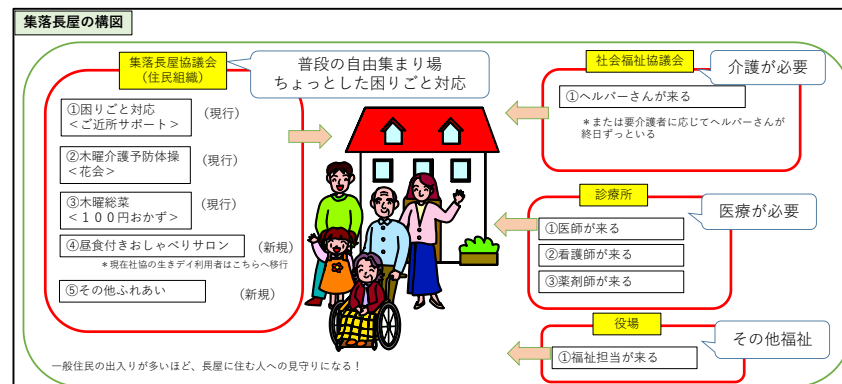
空き家活用型集落長屋プロジェクト

—ONE TEAMで取り組む居住支援のむらづくり—（鹿児島県居住支援協議会）

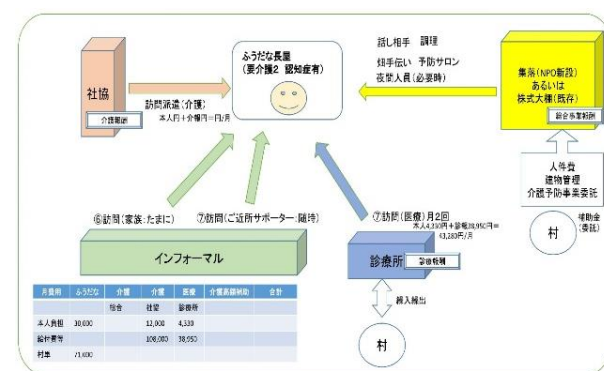
課題	県内屈指の高齢化率の鹿児島県大和村は、令和22年には過半の53.2%が高齢者になると予想されています。 村内に立地する村営の特別養護老人ホームは、老朽化が進行しており、介護人材の不足とあわせて、将来的に十分な介護サービスが提供できなくなることが懸念されています。 また、人口・世帯減少を背景とした空き家が増加する一方、小規模自治体のため住宅流通市場は未成熟で、村民の高齢化・高齢単独化を踏まえた居住支援体制の整備と、増え続ける空き家対策が大きな課題となっています。
目的	介護サービスの提供体制を持続可能なものとしていくため、空き家を活用した地域共住の拠点（集落長屋）とその周辺施設に、診療所や社会福祉協議会と連携した居住支援サービスを組み合わせることによって、村民協働（ONE TEAM）による住み慣れた地域で生活を最期まで送ることができるような支え・支えられるむらづくりの体制を構築することを目的としています
取組内容	① 対象空き家の状況調査・地域資源の発掘 ② 空き家の改修内容の検討 ③ 住民ワークショップの開催 ④ 求められる居住支援サービスの検討 ⑤ 介護サービス事業における運営コストの検討 ⑥ 検討結果の実現化及び他への水平展開検討
成果	対象となる空き家の活用提案の考え方や、居住支援の担い手の掘り起こしの方法、事業化に向けたコストシミュレーションの考え方など、本プロジェクトの各場面における検討の内容・考え方をとりまとめた「空き家活用型集落長屋プロジェクト 報告書」を作成しました。 今後、鹿児島県居住支援協議会の研修会等において成果報告を行うことで、同様の課題に直面している県下市町村への水平展開を図ることとしています。



【空き家改修案】



【居住支援体制】



【運営コスト検討】